仏領レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・
フルネーズ火山 2003 年噴火
2003 eruptions of Piton de la Fournaise
Volcano, French Réunion Island,
Indian Ocean

平松良浩 石渡 明
Yoshihiro Hiramatsu and Akira Ishiwatari

2004 年 5 月 7 日受付. 2004 年 7 月 15 日受理.
金沢大学理学部地球学科
Department of Earth Sciences, Faculty of Science, Kanazawa University, Kanazawa 920-1192, Japan

インド洋西部のレユニオンは世界で最も火山活動が活発な島の 1 つである. 同島は西部のピトン・デ・ネージュ火山 (約 200 万年前から活動を開始し, 約 3 万年前に活動停止) と東部のピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山よりなる (荒牧, 1995). 最近約 300 年間の 150 回以上の噴火の多くは, 後者のエンクロ・フーケ (Enclos Fouqué) カルデラ (南北径約 9 km; 東側は崩壊して海没) 内に生じた比高 400 m (山頂標高 2632 m) の楕状火山の 2 つの山頂クレーター (ドロミュー (Dolomieu) とボリ (Bory)) およびその山腹から生じている (第 1 図). 2003 年も活動が活発で, 5 ~ 7 月にドロミュー・クレーター内で数回溶岩を流出した (第 2 図). その後 8 月 22 日夜にはボリ・クレーター内と楕状火山北斜面の割れ目から噴火し (第 3 図), 標高 2150 m 地点にスパター・コーン (底径: 約 45 m, 比高: 約 15 m) が形成され (第 4 図), 8 月 27 日まで噴火が続いた. 9 月 30 日には楕状火山の南斜面で噴

第 1 図. レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山地形概略図 (上空北より望む) と 2003 年噴火の位置 (三角).

火し, 14 時間続いた. そして 11 月 6 日から 1 日 10 - 20 回の地震と山頂クレーター縁辺部で累積 30 cm に達する隆起が始まり, 12 月 7 日午後ドロミュー・クレーター内の南東縁から噴火し (第 5 図), 25 日まで続いた.

文 献

荒牧重雄, 1995, ピトン・デ・ラ・フルネーズ/レユニオン島. 荒牧重雄ほか編「空から見る世界の火山」, 丸善, 145-147.

第 2 図. レユニオン島ピトン・ドゥ・ラ・フルネーズ火山 2003 年 7 月の噴火. ドロミュー・クレーター内で流出するパホイホイ溶岩.

第3図. 8月の山腹噴火を火山の北側山麓から見る。中央の山の頂上部にドロミュー・クレターがあり、右手にはボリ・クレターがある。手前は2000年噴火ないしそれ以前の溶岩。

第4図. 同上近景（南東方向より望む）。火口後方には1998年大噴火時の噴火口であるピトン・カポー（Piton Kapor）が隣接する。背後の山はピトン・ドウ・パルターージュ（Piton de Partage）。

第5図. 同火山2003年12月の噴火。8月・9月の噴火はクレター外で発生したが、12月の噴火はドロミュー・クレター内の南東側縁辺部で発生した。